

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

吉田 慈 順

一、はじめに

平安時代初期、天台宗の伝教大師最澄（七六六／七六七―八二二）と法相宗の徳一（生没年未詳）との間で、激しい教理論争が展開された。この論争において、最澄は『照権実鏡』『守護国界章』『通六九証破比量文』『法華秀句』といった著作を相次いで撰述しており、これらは最澄の思想や教学を理解する上で不可欠な資料となっている。一方で、この論争に関する徳一の著作はその全てが散逸しており、彼の主張は、対論者であった最澄や後世の人師による逸文の引用を通じて断片的にしか伝わっていない。この論争の全容解明を困難にしている最大の要因はまさにこの点にあり、新たな逸文や資料の発見がいまなお待たれる状況である。

本稿の主題である最澄の『決権実論』も、この論争の過程で撰述された一書である。本書は、最澄と徳一の論難の往復を経て成立した著作であり、最澄の主著の一つであると同時に、この論争について考究する上で欠かせない資料となっている。ところが、これほど重要な文献であるにも関わらず、現行の『決権実論』は、本文に大きな脱落のある不完全なテキストとなっている。詳しくは後述するが、この脱落は現行テキストの底本の段階ですで見られるものであり、少なくとも『伝教大師全集』が刊行された大正元年（一九一二）以降、完全なテキストに基づく研究は一度も行われていない。

こうした状況の中、筆者は令和二年（二〇二〇）に、身延文庫に所蔵される『決権実論』の写本を閲覧する機会を得、この写本が現行テキストの脱落部分を完全に保持する、極めて貴重なものであることを確認した。そこで本稿では、現存が確認される唯一の完本である身延文庫所蔵

写本を全文翻刻し、他本との対校を通じて、今後の研究の基礎となる資料を提供することを目的とする。

二、現存諸本と現行テキスト

『決権実論』の現存する諸本について、『国書総目録』には六種が記載されている。⁽¹⁾そこで、まずはこれら六種について簡単に確認しておきたい。

【写本】

①久遠寺（以下、身延文庫本）

〔現所蔵〕 身延文庫

〔書写年〕 不明（十五世紀以前） 本書の表紙に「身延山久遠寺公用」「日朝」と記されていることから、行学院日朝（一四二二―一五〇〇、身延山久遠寺第十一世法主）の所持本であったことが確認される。したがって、書写年代は十五世紀以前に遡ることが確実であるが、それ以上の具体的な年代は不明である。

〔表紙〕 無地茶色表紙 外題打付書（墨書）「決権実論」

〔法量〕 縦二八・五cm×横一九・九cm

〔丁数〕 仮綴装、本文墨付四九丁（見返し本文共紙、前の遊紙一丁・後の遊紙二丁）

②西教寺正教蔵（元久三写）

所在不明。西教寺正教蔵文庫には、宝地房証真（生没年未詳、一三世紀）の作とされる『決権実論抄』の写本が収蔵されており、本書の外題には「決権実論」、巻末には元久三年（一二〇六）の奥書が記されている。『国書総目録』の「西教寺正教蔵（元久三写）」という記載は、この写本を誤認したものである可能性が高い。

③実藏坊真如藏（以下、真如藏本）

〔現所藏〕 叡山文庫

〔書写年〕 不明

〔表紙〕 無地青色表紙 外題打付書（朱書）「決権実論全」

〔法量〕 縦二六・五cm×横一八・七cm

〔丁数〕 袋綴装、本文墨付二五丁（見返し本文共紙、前の遊紙一丁）

【版本】

④寛永古活字版

成簀堂文庫（石川武美記念図書館内）に所蔵。刊年不明。

⑤万治三版（以下、万治三年本）

龍谷大学図書館と叡山文庫に所蔵される本を確認した。卷末に「万治三庚子年仲春吉旦中野五郎左衛門刊行」として万治三年（一六六〇）の刊記が見られる。

⑥刊年不明

東京大学図書館と東洋大学図書館に所蔵される本を確認したが、立正大学所蔵のものは未見。両本とも刊年は不明であるが、東京大学本には「貝葉書院」、東洋大学本には「台宗書林柳枝軒小川多左衛門刻」の刊記があり、ともに近世刊行のものであることが知られる。

以上、『決権実論』には、身延文庫本と真如藏本の二種の写本、並びに複数の版本が現存している。ただし、この中の版本については、いず

れも本文が三〇丁、一丁の片面が二〇文字×一〇行という形式に統一されており、同一の版本から刷られたものと推測される。そのため、刊記を除けば版本間での文字の異同は確認されない。また、後にも触れるが、これら版本の本文は真如蔵本とほぼ一致しており、真如蔵本、またはその系統の写本を底本とすることが明らかである。

次に、近代になって刊行された『決権実論』のテキストについて確認したい。

現在、広く利用されているのは、『伝教大師全集』第二巻（旧版は第三巻。以下、伝全本）収録のテキストである。その他、『増補改訂日本大藏經』第七十七巻（旧版は第三十九巻。以下、日蔵本）、安藤俊雄・蘭田香融（一九七四）にも収録されるが、これらはいずれも伝全本を底本とするものであるため、実質的なバージョンは一種類である。

そこでこの伝全本であるが、巻末の付記^②によると、本書は「比叡山浄土院所蔵『開山小部集』所録古師校訂本全一卷」を底本とし、「比叡山実蔵坊所蔵古写本全一卷書者及年時不詳」を対校本としている。この両書は現在も叡山文庫に所蔵されており、前者は先に確認した版本と同本、後者は真如蔵本を指す。ただし、伝全本の底本として用いられた『開山小部集』収録の『決権実論』（請求記号…浄土院・内典・六・五〇・五一）には、朱筆による訓点と、誤写・誤脱の訂正が施されており、これらの情報が伝全本の訓点と頭注に反映されている。

以上、『決権実論』の現存する諸本、並びに現行テキストについて整理した。次に、これら諸本の系統について考えてみたい。

三、諸本の系統

『決権実論』の現存する諸本は、その内容から大きく「身延文庫本系統」と「真如蔵本系統」とに二分することができる。この二つの系統を区分する最大の根拠は、『決権実論』の第六章「問有性無性了不了第六」に見られる脱落部分にある。

『決権実論』は、最澄・徳一間の論難往復を経て成立した文献であり、その成立過程はやや複雑である。本書の各問答は、それぞれ①山家問難、②北嶽会釈、③山家救難という三段から構成される。先ず、①山家問難は最澄によってまとめられた部分であり、ここに①問（徳一に対する質問）、②答（最澄が予想する徳一の回答）、③難（②に対する最澄の論難）の三が含まれる。その上で、①に対する実際の徳一の回答として②北嶽会釈が付され、さらに、②に対する最澄の反論として③山家救難が加えられるというのが、『決権実論』の各章の構成である。つまり、

左に示す通り、『決権実論』は、先ず最澄が①を作つて徳一のもとへと送り、これに対して徳一が②を製して最澄へと送り返す。そして、これを読んだ上で最澄が③を著すという三段階を経て成立した文献なのである。

① 山家問難（最澄による想定問答）…最澄から徳一へ

① 問（徳一に対する質問）

② 答（徳一の回答を最澄が予想）

③ 難（②に対する最澄の論難）

② 北嶽会釈（①に対する徳一の回答）…徳一から最澄へ

③ 山家救難（②に対する最澄の反論）…『決権実論』完成

では、この点を踏まえた上で、諸本の「問有性無性了不了第六」の本文を対照してみよう。上段が身延文庫本、中段が真如藏本、下段が版本である。

【身延文庫本】

← ① 山家問難

山家問難

問有性無性了不了第六

① 問不可治一闡提者或説有成仏性或説無成仏性此三種説何為了義何為不了② 答不可治一闡提者説有成仏性者為不了説若説無成仏性者為

【真如藏本】

← ① 山家問難

○ 山家問難

問有性無性了不了第六

① 問不可治一闡提者或説有成仏性或説無成仏性此二種説何為了義何為不了② 答不可治一闡提者説有成仏性者為不了説若説無成仏性者為

【版本】

← ① 山家問難

○ 山家問難

問有性無性了不了第六

① 問不可治一闡提者或説有成仏性或説無成仏性此二種説何為了義何為不② 了答不可治一闡提者説有成仏性者為不了説若説無成仏性者為

了義説③若説無成仏性者有性者是名了説言無性者是名不了也

←②北轅会釈

北轅会釈

奥州北轅者通曰末学者第六問難曰若無性有情不成仏者違天親仏性論第二卷末云言有性者是名了説言無性者是名不了今愍教授云会有二義一云彼論捩断善闡提判了不了不捩畢竟闡提判了不了何以故若有教説断善闡提有仏性は名了説若有教説断善闡提無行性は名不了説一云約理仏性判了不了可知也

←③山家救難

山家救難

山家救云北轅二会深乖論義其論正志者立悉有仏性破五種過失説真如仏性と五種功德況立三種破遮無性執也真諦三藏稟習天竺伝訳震旦不定性約位得名已定未定皆悉成仏況復明支三藏翻莊嚴論立無性位況復貞観以後金剛無畏不空般若等顯教密教窮理尽性西証東証皆能通達撥去三車伝流一乘当知悉有皆成内証正義三乘

了義説③難曰○違天親仏性論第二卷末云言有性者是名了説言無性者是名不了也

←②北轅会釈

○奥州北轅者通曰末学者第六問難曰若無性有情不成仏者違天親仏性論

○今愍教授云会有二義一云彼論捩断善闡提判了不了不捩畢竟闡提判了不了何以故若有教説断善闡提有仏性は名了説若有教説断善闡提無仏性は名不了

了義説③難曰○違天親仏性論第二卷末云言有性者是名了説言無性者是名不了也

←②北轅会釈

○奥州北轅者通曰末学者第六問難曰若無性有情不成仏者違天親仏性論

○今愍教授云会有二義一云彼論捩断善闡提判了不了不捩畢竟闡提判了不了何以故若有教説断善闡提有仏性は名了説若有教説断善闡提無仏性は名不了

五性理外權説我東土北轅独披經論任胸謗法今
 我發願此生討論為成行周定尺弥勒今日事北轅
 初会断善説無性何經論所説天竺為誰人後会理
 性説無仏性者何經論説若無誠証文此会通難成
 当知其論正義施權之故言無性者是名不了顯実
 之故言有性者是名了説是故名四不通也

(一三丁表—一五丁表)

←③山家救難

有性者は名了説是故名四不通也

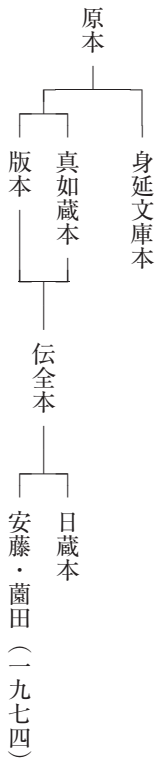
(七丁裏—八丁表)

←③山家救難

有性者は名了説是故名四不通也

(八丁裏—九丁裏)

ここに示したように、真如藏本と版本の「問有性無性了不了第六」には、②北轅会釈の後半から③山家救難の大部分にかけて大きな脱落が見られる⁽³⁾。また、波線部の通り、身延文庫本の「三種説」「無性有情」「無行性」が、真如藏本と版本ではそれぞれ「二種説」「無性有性」「無仏性」となっている。さらに、真如藏本と版本には、身延文庫本にはない「難曰○違天親仏性論第二卷末云」という一文が見られる。詳細は翻刻の対校注を参照されたいが、こうした異同は「問有性無性了不了第六」に限ったものではなく、真如藏本と版本の文字は全体にわたってほぼ一致しており、これらが同じ系統の底本に基づいていることが明らかである。一方で、身延文庫本と真如藏本・版本には数多くの異同が見られるため、その系統を異にしていることがわかる。したがって、版本が真如藏本そのものを底本として作られたのか、あるいは真如藏本と同系統の別の写本をもとにして作られたのかについては一概に判じがたいものの、一先ずは左のような系統を想定することが可能であろう。



身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

さて、先に述べた通り、『決権実論』の現行テキストはいずれも伝全本を底本としており、その伝全本は版本を底本、真如蔵本を対校本とするものである。したがって、いまここに示した脱落部分は、伝全本においてもそのまま踏襲されている。つまり、『決権実論』の研究は、少なくとも伝全本が刊行された大正元年（一九二一）以降、脱落部分を含む不完全なテキストに基づいて進められてきたのである。この点、身延文庫本によって現行テキストの脱落部分が補完できたことは大きな進展であるといえよう。

四、身延文庫本の意義と対校の必要性

身延文庫本と真如蔵本・版本とは、右に述べた大きな脱落の他にも少くない異同が確認される。紙幅の制約上、その全てをここで紹介することは難しいため、最後に一例を挙げておきたい。

伝全本の序文には、「枳 柢 為理俱迷何疑⁽⁴⁾」という不可解な一文が見られる。筆者の調べる限り、この「枳」「柢」という文字は他に用例の見られないものであるため、この一文がどういった意味を持つのか全く不明である。

そこで、伝全本の底本・対校本となった版本と真如蔵本の当該箇所を確認すると、真如蔵本には伝全本と同じ文字が使われているが、版本では「枳」が「枳」、「柢」が「柢」に置き換えられている。もちろん、この置き換えによって「枳 柢 為理俱迷何疑」としたとしても文意を解説することはできない。恐らく、伝全本の編纂者は、真如蔵本の「枳」「柢」、版本の「枳」「柢」という不可解な文字について、その意味を取ることが叶わないまま、真如蔵本の文字を採用して活字を製したのであろう。

問題は、伝全本が意味の通らないままに「枳」「柢」という文字を採用したことで、後継のテキストにも混乱が生じてしまったことである。

たとえば、日蔵本では、当該箇所を「指 柢 為理⁽⁵⁾」として、伝全本の「枳」を「指」、「柢」を「柢」（植物の主根の意）に置き換えているが、これでもやはり意味が通じない。また、安藤 蘭田（一九七四）は、伝全本の「枳」を「指」、「柢」を「権」に改めて「指 柢 為理⁽⁶⁾」とした上で、「権」を指して理となして「、 俱に迷ふこと、何ぞ疑はん⁽⁷⁾」と訓読している。確かに、「枳」を「指」の異体字と見ることは一考に値するが、「柢」を「権」の異体字とすることには無理があろう。なお、大竹晋（二〇二一）の現代語訳では、伝全本を改変することなく「枳 柢 為理」に忠実に向き合い、「柢を枳する」と訳した上で、「解説不能。『権に執する』の誤写か⁽⁸⁾」と注記している。大竹（二〇二一）が指摘する通り、この一文は

このままでは解読できないのである。

そこで、身延文庫本の当該箇所を確認すると、この箇所は「指狐為狸俱迷何疑」^⑨となっている。つまり、この文章は「狐を指して狸と為さば、俱に迷うこと何ぞ疑わん」と読むべき文章なのであり、ここで初めて文意が明らかとなったのである。思うに、真如藏本と版本は、「狐」の「彡」を「木」と誤読して「柂」「楸」とし、「狸」の「彡」を「王」と誤読して「理」としてしまったのであろう。

このように、他の写本や版本では意味の通じなかった箇所が、身延文庫本によって初めて解読可能となる例が見られるのであり、この点からも、身延文庫本は極めて貴重である。しかしながら、身延文庫本もまた完璧なテキストではない。たとえば、先に示した通り、「問有性無性了不了第六」では、真如藏本・版本が「二種説」としている箇所を、身延文庫本は「三種説」としている。ところが、この箇所は「一闡提にも成仏の性があるとする説」と「一闡提には成仏の性がないとする説」のいずれを了義と見るべきかを問う文脈であるため、「二種説」でなければ意味が通らない。また、本来は山家問難に含まれていたであろう「難曰○違天親仏性論第二卷末云言」という一文が、身延文庫本では脱落していることも確認される。このように、身延文庫本にも誤写・誤脱と見られる箇所が含まれているため、これだけに依拠するのでは『決権実論』の全容を正確に把握することができない。確かに、身延文庫本は現存する唯一の『決権実論』の完本であり、その学術的価値は極めて高い。しかし、その価値を十分に引き出すためには、真如藏本や版本との対校による相互補完が不可欠なのである。

〔凡例〕

- 一 身延文庫所蔵『決権実論』（写本）の全文を翻刻し、叡山文庫真如蔵写本と万治三年版本をもって対校した。
- 一 翻刻に際しては、字下げ、訂正、補入等は底本通りとし、出来るだけ底本の状態を再現するようつとめた。ただし、次の点で若干の操作を加えてある。

- ・旧字・異体字は、原則として通行の字体に統一した。
- ・合字・略字はすべて開いた。（例…ノ↓シテ 井↓菩薩）
- ・割り注はへゝ内に示し、割り注内の改行は／で示した。
- ・各丁の表裏ごとに、各行に1から7の通し番号を付した。
- ・判読できなかった文字は■で示した。
- ・虫損等による欠損箇所を□で示し、推定が可能な場合はその文字を□の中に示した。
- ・抹消された文字には「ゝ」を付した。

一 対校は以下の基準で行った。

- ・叡山文庫真如蔵写本を①、万治三年版本を②と表示した。
 - ・旧字・異体字は、原則として通行の字体に統一した。
 - ・合字・略字はすべて開き、割り注はへゝ内に示した。
 - ・意味が同じ文字については、煩を避けるため敢えて対校注に示さなかったものもある。（例…花／華 云／言／曰）
- 一 本書の閲覧および翻刻をご許可くださった身延文庫御当局に深く御礼申し上げます。

〔表紙〕

九十八

身延山久遠寺公用

決権実論
伝教作

日朝

〔二丁表〕

1 決権実論序（序①②）・前人唐求法沙門釈澄撰

2 夫一権四実唐基（一①②）一実三権五仏同宣乃有東

3 隅北轆（北①②）謗昇堂之山聴執伝外之所説嗚乎釈（乎①②）

4 迦大師昔於北轆（北①②）何怨敵繫無漏業絆有為区（有①②）

5 噫乎法（法①②）花現於夏虫何有怨嫌貶権蜜虚置（蜜①②）

6 不了階悲哉無性仏子永閉決宅哀哉定性小（性①②）

7 子終死灰断増減之卷自東土興更生之詞満諸

〔二丁裏〕

1 人口可不悲哉々々々々僕慨一乗之未顕然恨三蜜之（蜜①②）

2 未開敷於是権宗夏眷属稍多頭疑氷之心習（氷①②）

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

3 常弥執非但一乗之沈隱亦復三乗可滅没指、(指①指田指)

4 狐(狐①狐田指)為狸(狸①狸)俱迷何疑原一乗境界唯仏所知十地三賢不

5 能思量雖然積尊父子天性定於開權一乘家業

6 付於顕実是以一分慈悲纏於劣心為導中人謹造

7 斯論誓願云無量時中濟闡提苦云爾決権実論(云①田ナシ)

〔二丁表〕

1 山家問難

2 北轅会釈

3 山家救難

4 山家問難

5 一問 二答 三難 四不通義

6 問法花経一仏乗教第一

7 問法花経所説唯^(一)一仏乗ノ教者法花会以前^(二)為皆已説

〔二丁裏〕

1 為未説^(一)トヤ也

2 答法花経所説唯^(一)一仏乗教者中道之理同故^(二)法花会

3 以前^(一)為^(二)皆已^(三)説^(四)者^(五)違法花第一卷ノ方便品ノ偈云所以未

4 曾説々時未至故今正是其時決定説大乘也(一)也難曰法華経所説唯^(二)一仏乗教者中道之理同故法華会以前皆^(三)為説

5 北轅会釈

6 奥北轅者通曰法花ノ末學者依^(一)法花経ニ発ス十ノ問一難第

7 一問テ曰法花經所説ノ唯一仏乗教者法花会以前為皆已説一

〔三丁表〕

1 為未説也（世①②③答曰法華經所説唯一乗教者中道之理同故法華会已前為皆已説也）

2 難曰法花經所説ノ唯一仏乗ノ教ト者中道之理同（一④⑤⑥ナシ）故ニ法花会

3 以前（為①②ナシ）為皆已説ト者違法花ノ第一卷ノ方便品偈ニ云所以未曾

4 説々時未至故今正是其時ナリ決定説ム大乘一今愍教授ニ云

5 汝答汝難ニ俱愚癡ナリト所云ニ汝答愚癡ナリト者汝答テテ唯一

6 仏乗教者中道之理同故ニ法花以前（一④⑤⑥ナシ）為コトクハ皆已説ト者此答、

7 愚癡ナリ何以ノ故ニ不シテ知法花意一以謬答一故ニ

〔三丁裏〕

1 今徴シテ之ヲ曰汝所ノ答ニ法花一乗教ト者法花会ノ前已説ナリト

2 者（イフコトハ）此是誰ノ語ヲ為ム有トヤ憑文ニ為汝カ。語一ナリトヤ若有文証一者請示シセ

3 其文一何ノ經論文ソ若自義ノ答者是為愚癡ノ答ト何以故ニ

4 法花会ノ前ニハ未説会ニ破ニ之一仏乗一故ニ所云ニ汝難愚

5 癡（一④⑤⑥ナシ）尋癡答一而致詰難一故ニ是ヲ名愚癡難ト今当ニ教授スス応

6 敬ニ信受ス方便品偈ニ云ク未ス曾一モ説一汝等当得成スルコト仏道一所以未

7 曾説々時未至故今正是其時ナリ決定説大乘一

〔四丁表〕

1 釈曰仏成道来四十余年以前未タ曾説不定性ニ乗成

2 仏道故ニ云未曾説汝等当得成仏道ト所以四十年前ニ未

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

- 3 曾テ說不定性（一〇）道二乗成仏道（一〇）道者ハ其不定性舍利弗等（一〇）道ノ二
- 4 乘根機未熟（一〇）道故ニ不說汝等得テ仏道（一〇）道故ニ云ク所以未曾說等（一〇）道
- 5 也今法花会ニ彼舍利弗等根機淳熟（一〇）道堪聞（一〇）道授記（一〇）道說会（一〇）道ニ
- 6 破二之大乘（一〇）道故ニ云今正是其時等也（一〇）道

山家救難

〔四丁裏〕

- 1 山家救云北轅者徵釈自害尤深（一〇）道違三時教（一〇）道故若言法
- 2 花経ノ破二中道（一〇）道理四十年前以前釈迦未說（一〇）道者法花中道ノ理不
- 3 同深蜜（一〇）道理（一〇）道今此法花経ハ不（一〇）道應撰三時（一〇）道云中道ノ理不（一〇）道異深
- 4 蜜（一〇）道理（一〇）道是故法花経ニハ（一〇）道應撰三時（一〇）道者愚癡（一〇）道過失北轅不可
- 5 免（一〇）道若理雖同（一〇）道破二等別（一〇）道故ニ会前（一〇）道未說（一〇）道者所示（一〇）道理雖同（一〇）道
- 6 破二等別故ニ不被撰三時（一〇）道又（一〇）道会法花ノ文（一〇）道云何成道来（一〇）道タ四
- 7 十年前（一〇）道未曾說不定性（一〇）道二乗成仏道（一〇）道故云未曾說汝

〔五丁表〕

- 1 等当得成仏道（一〇）道者此釈不爾妄分明故不定性（一〇）道二乗
- 2 当得成仏道（一〇）道者仏成道（一〇）道已来（一〇）道四十年前以前諸大乘経等
- 3 以皆已（一〇）道說（一〇）道故ニ但定性（一〇）道二乗四十年前以前当得成仏道（一〇）道未（一〇）道、
（一〇）道
- 4 曾說（一〇）道故是故法花会麟角舍利弗敗種大迦葉聞
- 5 内証（一〇）道仏智俱受成仏（一〇）道記（一〇）道舍利弗及迦葉（一〇）道名角（一〇）道者名敗種（一〇）道
（一〇）道
- 6 聖教明（一〇）道所說入正位（一〇）道二乗名（一〇）道為不定性（一〇）道経論（一〇）道無所說其

7 撰論不定大小意別故不名舍利子^{〔四〕〔五〕名目}是故四不通也

〔五丁裏〕

1 問一切衆生皆為仏子第二^{〔一〕〔二〕山家問難}

2 問曰我釈迦如来以此三界中一切衆生類悉是為吾子^{也歟}

3 已否^{〔三〕〔四〕} 答曰我釈迦如来者以此^{〔五〕〔六〕}三界中一切衆生類悉

4 是為吾子^ト雖然^{〔七〕〔八〕}若畢竟^{〔九〕〔一〇〕}無涅槃^{〔一一〕〔一二〕}性衆生等ハ如彼養

5 子^ニ故^ニ必ス不嗣^{ツカ}仏位^ニ也 難曰我釈迦如来者此三界一切

6 衆生類悉是為吾子^ニ雖然若畢竟^{〔一三〕〔一四〕}無涅槃性^{〔一五〕〔一六〕}衆生

7 等ハ如彼養子^ニ故^ニ必不嗣^{〔一七〕〔一八〕}仏位^{〔一九〕〔二〇〕}者ハ違法花経^{〔二一〕〔二二〕}第二卷

〔六丁表〕

1 譬喩品偈云今此三界皆是我有其中衆生悉是

2 吾子 又云是諸衆生皆是我子等与大乘不

3 令有人独得減度皆以如来減度而減度之也

4 北轅会釈^{〔北〕〔一〕〔二〕〔三〕}

5 奥州北轅者通曰末学者第二問難云我釈迦如来以三^{〔我ハ〕〔三〕〔四〕〔五〕}

6 界中衆生為各一子者有無性有情終不成仏云何仏為^{〔各〕〔六〕〔七〕}

7 一子^{〔八〕〔九〕}教違法花今愍教授云為無性有情説人天教^{〔一〇〕〔一一〕}令得^{〔一二〕〔一三〕}

〔六丁裏〕

1 人天果^{〔果〕〔一〕〔二〕}一故^{〔三〕〔四〕}猶名一子^{〔五〕〔六〕}一也

2 山家救難^{〔山〕〔七〕〔八〕〔九〕}

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

- 3 山家救云（毎一子（四）〇）為無性有情（何義（四）可通）説人天教（令得人天果一ヲ故ニ猶ヲ名一子ト）
- 4 此釈何漢法花經文云是諸衆生皆是我子等与大乗
- 5 〈已上／經文〉 仏勅 諸子（トノウ）等与大乗一如来滅度而滅度之（許（四）〇誰）
- 6 永住三界宅（イタル）何子灰断死（死無余（四）余死）無余（一（四）者）若有聞法有心（一（四）者）分明
- 7 自知当作（コトヲ）仏（乘（四）〇ナシ）若大乘不与無性（乗（四）〇ナシ）者等与之言都（乗（四）〇ナシ）テ無用

〔七丁表〕

- 1 仏何有貪畏諂吐等与云（与（四）〇〇）当知仏与実語（与（四）〇〇）者亦為如語（与（四）〇〇）
- 2 者真実皆成仏勅安樂等与言（安樂（四）〇〇）若北轅義（之（四）〇〇）或子得仏果（之（四）〇〇）
- 3 或子得小果或子得人天拔苦已（之（四）〇〇）不等与樂之各別（之（四）〇〇）汝今
- 4 一子名唯有名（一（四）〇〇）無実（一（四）〇〇）北轅者未見亦未聞入仏三昧耶三（一（四）〇〇）
- 5 平等深義発不平等見（常（四）〇〇）常犯越三昧（常（四）〇〇）自墮及墮他（一（四）〇〇）寧
- 6 雖近惡獸（一（四）〇〇）不近惡知識（一（四）〇〇）誰有智者將近北轅哉当知四
- 7 不通難至極難越也

〔七丁裏〕

- 1 山家問難
- 2 問皆名仏子一切衆生作仏第三
- 3 問曰若名仏子一切衆生来世作仏已否
- 4 答曰縱使雖名（テ）為（ト）仏子（ト）然彼畢竟（性（四）〇〇）無涅槃（性（四）〇〇）經者決定来世
- 5 不作仏道
- 6 難云縱使雖名（一（四）〇〇）為（ト）仏子（ト）然彼畢竟無涅槃經者決定来世

3 畢竟無涅槃性成仏第四
(性①の性)

4 問畢竟無涅槃性者見仏聞經ノ故終ニ積善根ニ必當得作仏已否ナリ
(性①の性)

5 答畢竟無涅槃性者都無三乘無漏ノ種子故雖見仏聞法
(性①の性)

6 而但殖人天ノ善根不樂欲涅槃是ノ故不得作仏者違法花經
(性①の性)

7 第一卷ニ方便品偈云一切諸如来以無量方便度脱諸衆生入
(性①の性)

〔九丁裏〕

1 仏無漏智若有聞法者無一不成仏也

2 北轅会釈
(北轅會釈)

3 奥州北轅者通曰ク末學者第四問難曰ク畢竟無性有情不得作
(曰ク畢竟無性有情不得作)

4 仏者ハ違法花經ニ方便品云一切諸如来以無量方便度脱諸
(性①の性)

5 衆生ニ入仏無漏智若有聞法者無一不成仏

6 今愍教授云若有不定種姓ノ有情聞法花經一句
(句①②者無一不成仏也)

7 山家救難
(山家難)

〔二〇丁表〕

1 山家救云若有不定種姓有情聞法花經一句者無一トシテ不
(若し仏者ニの性)

2 成仏者ハ此釈不爾未解一乘故ニ一乘正意者定性三乘人
(性①の性)

3 定姓四人無種姓五人一切有心者若有聞法者無一不成仏
(性①の性)

4 夫十方仏土中ニハ唯一乘法何有三五乘也開示悟入唯仏
(性①の性)

5 知見何有定無姓也北轅者未知一法界未見一法界豈
(豈①②是故)

6 増減見起大邪見也是故名四不通也
(性①の性)

7 山家問難

〔二〇丁裏〕

1 問有姓無姓俱成仏第五

2 問有姓与無姓皆成仏道為当有成不成耶

3 答有姓者ハ、得成コトヲ 仏道ニ無姓ノ者ハ、不得成仏一スルコトヲ也

4 難曰若有性者得成仏道ニ無姓ノ者ノハ、不得成仏一者違大円覺

5 修多經了義經云有性無性齊成仏道也

6 北轅会釈

7 奥州北轅者通曰末學者第五問難曰若有性者得成

〔二一丁表〕

1 仏道無性者不得成仏者大円覺修多羅了義經有性無性齊成

2 仏道

3 今愍教授云彼經ハ約真如仏性ニ而説ナリ有性無性齊成仏道ト不掬

4 行仏性ニ説ニハ 此復云何一切有情ノ真如即無性有情ノ真如同成就シテ有

5 性無性齊成仏道トハ有性有情ノ真如即無性有情ノ真如同成就シテ覺

6 智性齊ク成仏道ニ何以知然モ修多羅了義經ニ云一切如來妙覺心也

7 本無シ菩提及与涅槃亦無成仏及■成仏無妄輪廻及非輪廻善男

〔二二丁裏〕

1 子一切障礙即有究竟覺得念失念無非解脫成法皆

2 名涅槃ニ智惠愚癡通為般若ニ菩薩外道所成就法同是菩提

身延文庫蔵『決權実論』の翻刻と対校

3 無明真如無異境界一衆生^{四衆}■土同一法性地獄天^{宮衆}■皆為

4 淨土有性無性齊成仏道^(齊④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)

5 案此經意智恵真如即愚癡真如故ニ云智恵愚癡通

6 為般若乃至有性有情ノ真如即^{至④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}無性有情ノ真如即^{性④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}無性有情^{即①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}

7 真如故云有性無性齊成仏道此等諸文約一味平等理仏

〔二二丁表〕

1 性ニ顯無差別義ニ不顯行仏性ニ有差別義

2 汝不知經義意ニ偏執文句^(意④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)以証立皆成仏ニ迷謬甚耳汝

3 若文取義執皆成仏道者即經云地獄天宮皆為淨土既^(淨④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)

4 淨土ニ何故ツ菩薩經^ア無量劫^{ナリ}嚴淨^{淨④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}淨土ニ又經云智恵愚癡通^テ為般若

5 既ニ愚癡即智恵凡夫云即仏^(云④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)何故菩薩經無量劫^{断故塵数}

6 障^ヲ方大覺円滿^ニ又云無明真如無異境界^(云④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)既無明即真如

7 故凡夫異生^{見真如}■見真如^{見真如④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}有無明^{有無明④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}故真如故諸仏心不見真

〔二二丁裏〕

1 如^ヲ真如即無明故ニ是故当知彼經約真如理仏性^{性④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}說有性

2 無性齊成仏道^{齊④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}若依此義我亦共許無所乖諍唯執行仏性

3 簡成不成也

4 山家救難^(山④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)

5 山家救云今此円覺經有性無性ノ言ハ為^{性④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}理性有無^{為理性有無④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}為行性ノ有無

6 為云理性^{若衆}者有自語相違^{為云理性④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿}汝許^{若衆}真如^{若衆}ノ性^{若衆}覺知共^{若衆}有^{若衆}一故^{若衆}是^{若衆}有^{若衆}無^{若衆}

7 性、無性(一)④⑤有性、
性、無性、
哉

「三三丁表」

1 若言行性(齊④⑤皆)者亦自語相違汝云彼經約真如仏性(齊④⑤皆)而說有性無
性(齊④⑤皆)齊成仏道(齊④⑤皆)不拋行仏性(齊④⑤皆)說故(齊④⑤皆)若言有性無性雖モ拋行性(齊④⑤皆)然齊
成仏道(齊④⑤皆)言ハ約真如(齊④⑤皆)仏性(齊④⑤皆)者能成有無(齊④⑤皆)又真如(齊④⑤皆)性故(齊④⑤皆)應当成仏(齊④⑤皆)天親
仏性論說真如仏性(齊④⑤皆)名應得因故具三仏性故是名四不通也(齊④⑤皆)

5 山家問難

6 問有性無性了不了第六

7 問不可治一闡提(齊④⑤皆)者或說有(齊④⑤皆)成仏(齊④⑤皆)性(齊④⑤皆)或說無(齊④⑤皆)成仏(齊④⑤皆)性(齊④⑤皆)此三種(齊④⑤皆)說何
「三三丁裏」

1 為了義何為不了答不可治一闡提(齊④⑤皆)者說有(齊④⑤皆)成仏(齊④⑤皆)性(齊④⑤皆)者(齊④⑤皆)為不了

2 說若說無(齊④⑤皆)成仏(齊④⑤皆)性(齊④⑤皆)者(齊④⑤皆)為了義說

3 若說無(齊④⑤皆)成仏(齊④⑤皆)性(齊④⑤皆)者(齊④⑤皆)有性(齊④⑤皆)者(齊④⑤皆)是名了說言無性(齊④⑤皆)者是名不了也

北(齊④⑤皆)輓(齊④⑤皆)会(齊④⑤皆)釈(齊④⑤皆)

5 奥州北輓者通シテ曰ク末學者第六問難ニ曰ク若無性有情不成仏(齊④⑤皆)者

6 違天親、仏性論(齊④⑤皆)第二卷(齊④⑤皆)末ニ云ク言有性(齊④⑤皆)者是名了說言無性(齊④⑤皆)者

7 是名不了今愍教授云(齊④⑤皆)会(齊④⑤皆)スルニ有二義一云ク彼論ハ(齊④⑤皆)抛断善(齊④⑤皆)

「四丁表」

1 闡提(齊④⑤皆)判ス了不了不拋畢竟闡提(齊④⑤皆)判ス了不了何以(齊④⑤皆)故若有教(齊④⑤皆)說ク
断善闡提有仏性(齊④⑤皆)是名了說(齊④⑤皆)若有教(齊④⑤皆)說断善闡提無行性(齊④⑤皆)

身延文庫蔵『決權実論』の翻刻と対校

3 是名不了説^(一)云約理仏性判了不了可知也

4 山家救難

5 山家救云北轅二^(一)会深^(二)乖論義^(三)其論正志者立悉有仏性^(四)

6 破ス五種過失^(一)説ク真如仏性^(二)与五種功德^(三)況ヤ立テム三種^(四)破^(五)遮スル

7 無性ノ執^(一)也真諦三藏稟習^(二)天竺^(三)伝訳^(四)震旦^(五)一定不定性^(六)約^(七)

〔二四丁裏〕

1 位^(一)得^(二)名^(三)已定未定皆悉^(四)成仏^(五)況復明支三藏翻莊嚴論

2 立無性^(一)位^(二)況ヤ復貞觀以後金剛無畏不空般若等^(三)顯教蜜

3 教窮理^(一)尽性^(二)西証東証皆能^(三)通達撥去^(四)三車^(五)伝流^(六)一乘^(七)

4 当知悉有皆成内証^(一)正義三乘五性^(二)理外^(三)權説^(四)我東土^(五)

5 北轅独披經論^(一)任^(二)胸^(三)謗法^(四)今我発願^(五)此ノ生^(六)討論^(七)為成行^(八)

6 周^(一)定尺^(二)弥勒^(三)今日事北轅^(四)初ニ会断善^(五)説^(六)無性^(七)何經論^(八)所説^(九)

7 天竺^(一)為誰人^(二)後^(三)会^(四)理性^(五)説^(六)無仏性^(七)者何^(八)經論^(九)説^(一〇)若無^(一一)誠証^(一二)

〔二五丁表〕

1 文此会通^(一)難^(二)成^(三)当知^(四)其ノ論^(五)正義^(六)施權^(七)之故^(八)言無性^(九)者是名

2 不了^(一)顯実^(二)之故^(三)言有性^(四)者是名了説^(五)是故名四不通也

3 山家問難

4 問入滅二乘廻心向大第七

5 問入滅二乘者為廻心向大^(一)已否^(二)答入滅二乘灰身滅^(三)

6 智^(一)是故^(二)不廻心向大^(三)唯有清浄真如^(四)不定性^(五)二乘^(六)定不入滅^(七)

7 故 難（若一）二五乘一者ハナシ曰若人滅二乘者灰身滅智ハナシ故二不廻心向大一

〔二五丁裏〕

1 唯有清淨真如（卷④⑤ナシ）不定性ノ二乗ミ定テ不入滅一故二者違法花經一

2 第三卷（卷④⑤ナシ）化城喻品云ク是人雖生滅度之想入於涅槃二而於彼

3 土二求仏智恵得聞是經一

4 北轅（北一五州④⑤ナシ）会釈

5 奥州北轅者通曰ク末學者ノ第七ノ問難ニ曰ク若定性ノ二乗入滅（日一ノ七経④⑤⑥）シテ

6 不廻心向大二違法花經第三卷二是人雖生滅度之想入一

7 於涅槃而於彼土求仏智恵得聞是經一今啓教授云ク汝

〔二六丁表〕

1 由不ル知ニ已テ今ニ當ニ之一三字ノ差別ニ而如是一迷執ス經ハ唯云テ當

2 入涅槃二不云ハ已入ト亦不ス云ハ今入無余涅槃ト當ニ知ル彼ノ法花經ハ約シテ

3 不定性ノ声聞ノ住有余涅槃二求ニ入無余一而説テ當人涅槃ト不説已（卷④⑤ナシ）

4 入無余涅槃ト後ニ從彼起テ廻心向大ス何以知然一正法花ノ第四卷（卷④⑤ナシ）

5 云ク声聞縁覺生死已ニ断度テ於三界ニ臨（釋④⑤説）滅度一仏在前一

6 住（フルニ）誨（ワシウ）以要法ヲ發ス菩薩ノ意ヲ既云臨滅度ト知（何④⑤仏）未ス入無余滅一

7 若人（何④⑤仏）無余滅一灰身滅智セハ猶如虚空ニ何住（誰カカニ）誰前ニ誨ヘム

〔二六丁裏〕

1 何等ノ法（ワカ）一也

2 山家救難（山一難④⑤ナシ）

〔若〕〔一八丁表〕1故云④⑤⑥⑦

八丁表

向大故終無余涅槃一故云違法花經第一卷方便品云終不以

小乘濟度於衆生

北（北へ4州）轅（イロナシ）会釈

奧州北轅者通曰末學者第八問難曰趣寂二乘者終小乘濟度

彼類不迴心向大故終趣無余涅槃者違法花經方便品之終不以

小乘濟度於衆生 今愍教授云四十年前雖不簡別定

不定性以小乘濟度而至法花會度不定性以大乘法不

八丁裏

以小乘故云終也

山家救難(山ノ難イコ)

山家救云北轅会釈都無道理所以者何四年以前簡別不定

性以大乘濟度故汝寶積深密諸大乘經送却天竺而後（性・イロ姓）

可云二四十年以前雖示簡別定性以小濟度也(示④回不)今其經現有(④回不定)今其經現有(今④回ナシ)

海內經藏何無簡別哉未入正位不定二乘法花之前以大濟

度已入正位定性二乘至法花会以大濟度此会不在迦

九丁表

葉伝説唯除第五驚怖自余四驚怖皆入真実衆俱

得成仏記故經云終不以小濟度於衆生汝違五仏平等惠

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

3 恒執五性差別義(註②③)謗人謗法都不息不可治人非汝誰是故名

4 四不通也

5 山家問難

6 問釈迦未極化第九

7 問我釈迦大師為此趣寂授以小乘化為極也為当成極耶(④⑤本)

〔二九丁裏〕

1 答我釈迦大師為此趣寂機以小乘化為極此人不廻心不向(④⑤本)

2 大故

3 難云若我釈大師為此趣寂機以小乘化為極也此人不廻心不(若くは若く④⑤⑥)

4 向大故者違法花經第一方便品偈云若以小乘化乃至於(南④⑤ナシ)

5 一人我則墮慳貪此事為不可也

6 北轅会釈(北①⑦州④⑤ナシ)

7 奥州北轅者通曰末學者第九問難曰若釈迦大師為此(曰①②③表③可④⑤⑥)

〔三〇丁表〕

1 趣寂機以小乘化①為極也此人不廻心亦不向大故者違法花

2 經方便品偈曰若以小乘乃至於一人我則墮慳貪此事為

3 不可

4 今愍教授云此不異前問故同前答曰不定性舍利弗二乘人(④⑤年)

5 至法花会根機已熟而我釈迦同四十前猶以小乘化乃至一人(食④⑤)

6 我則墮慳貪何以故仏自証大乘以小乘化余二乘故此事

7 為不可也

〔二〇丁裏〕

1 山家救難（山ノ難ニ④⑤ナシ）

2 山家救云此会釈不爾違法花意故其法花正意以大小相

3 対称（対④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿）小為壹人不以定称不定為一北轅者何（之④⑤ナシ）隱小之化存無

4 量定性今墮釈迦尊慳貪乃不可明知轅者非釈迦仏子（性④⑤性）

5 是故名四通不通也

6 山家問難

7 問不定性者捨身第十（性④⑤性）

〔二一丁表〕

1 問不定姓二乗者捨此身已得變易身若不捨此身留（此④⑤ナシ）有報身

2 増寿變易也 答不定姓二乗（姓④⑤性）不捨此身留（性④⑤性）有報身増

3 寿變易也 難云若不定姓二乗（若④⑤者④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿）不捨此身留（性④⑤性）有報

4 身増寿變易者違法花経第三卷授記品云我此弟子大目

5 捷連捨是身已得見八千二百萬億諸仏世尊也（世④⑤⑥ナシ）

6 北轅会釈（北ノ轅④⑤⑥ナシ）

7 奥州北轅者通曰末學者第十問難曰若不（曰④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿）定姓二乗不捨身

〔二二丁裏〕

1 留有報身増寿變易者違法花経三卷授記品云我此弟子

2 大目捷連捨是身已得見八千二百萬億諸仏世尊

- 3 今愍教授云不定姓二乘延分段身至金剛位愚智共許
- 4 然所云大目犍連捨是此身已者隱実變易身別作。身於化
- 5 同法者前化火燒身現入無余涅槃依此化身而同法者皆作（無明結）
- 6 此意言大目犍連等已入無余涅槃以前十問答中広説如（意の念）
（中のナシ）
- 7 辺義鏡恵日羽足遮異見恐厭繁文不煩重述也（中のナシ）
（中のナシ）

〔二丁裏〕

- 1 山家救難（性）（中）（性）
- 2 山家救云不定性二乘延分段身至金剛位愚智共許者（性）（中）（性）
- 3 此云不爾但愚者為許智者不許故当知道生古藏靈潤法（調）（中）（調）
- 4 宝法藏恵苑定寶澄觀法相宗義寂義一良賁等新（寂）（中）（家）
- 5 羅国元曉法師我大日本国上宮聖徳王約一乘実教都不許
- 6 延身北轅者学無業師独居東隅何輒得知愚智共許其
- 7 愚誰人其智何人況復天竺東居曇牟讖三藏流支三藏（東居）（中）（來世）

〔二丁裏〕

- 1 真諦三藏実叉難陀三藏日照三藏流志三藏金剛智
- 2 三藏無畏三藏不空三藏般若三藏等立悉有仏性盛
- 3 伝一乘教定性之三（性）（三）（種）（中）（結）種二乘具三種余必死闡提皆悉
- 4 成仏況復馬鳴菩薩龍樹菩薩俱得経記天親菩薩堅恵菩薩
- 5 青弁論師智光論師説内証一乘伝三平等義況復我南
- 6 岳天台昔仏在世時於靈鷲山中親聴法花経願力生隋

7 国伝説一乘義大唐聖僧中阿聖為堯舜伝録豈伝空(卷①②+歳)

「三丁表」

1 北轅者未勘目連所殺之滅化身灰滅妄語甚哉上来十

2 救随通略救具如別置説是故名四不通也(隨④⑤題)(具④⑤)(置④⑤章)

3 山家問難

4 法相宗 山家問難(相④⑤性)(十一卷)(④⑤ナシ)
「十一條」

5 問門外三車之中牛車与露地白牛車同異第一

6 問門外三車之中牛車与露地白牛車為同為異耶

7 答門外三車之中牛車与露地白牛車者因果不異

「三丁裏」

1 故為同也

2 難云若言門外三車之中与露地白牛車者因果不(若い者④⑤)

3 異故為同者違法花経第二譬喩品云是時諸子各乘大車

4 得未曾有非本所望也

5 北轅会釈(北轅④⑤)(北州④⑤)

6 奥州北轅者通曰法花末学者依三車譬発十問難

7 第一問難曰若言門外三車之中牛車露地大白牛車者

「二四丁表」

1 因果不異故為同者違法花経第二譬喩品云是時諸子各(因④同)(第①2所望)(④⑤)

2 乘大車得未曾有非本所望 今愍教授云望中小二子名

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

- 3 非本所望非大子名非本所望何以故法花三周領解文中
- 4 唯中小二子領解牛車太子不領牛車故也

（山難②③④）
山家救難

- 5 山家救難
- 6 山家救云望中。小二子一名非本所望非大子名非本所望何以故法花三周領解文中唯中小二子領解牛車太子不領

〔二四丁裏〕

- 1 解牛車「故者是則為救自義棄ソムク分明文明④⑤⑥」尋領解文北
- 2 轅妄会所々非一海初周之中迷天子領解海④⑤⑥「無大子領解又④⑤⑥」
- 3 北轅者常迷令指分明又令向南越方又④⑤⑥「其宅内所許又④⑤⑥」
- 4 門外三車門外都無是故三子各々願云父先所許又④⑤⑥
- 5 玩好之具羊車鹿車牛車時賜与也若三中時④⑤⑥
- 6 牛車門外現有故大子願時賜与也又諸子之
- 7 言願車之時由何冠三非本之時由何冠二若非本

〔二五丁表〕

- 1 所望不開大子者賜車之時不可乘車若爾各乘之
- 2 義已失壞当知非本所望言当同三子語是故文殊
- 3 答問偈云諸求三乘人若有疑悔者仏当為除断令尽
- 4 無有余是故ニ未免其難也

- 5 山家問難 問三子願三車第二（玩④⑤⑥）
- 6 問諸子得出露地而坐願父先所許玩好之具時為唯二（玩④⑤⑥）

7 乘子願車^一為當菩薩子願車耶

「二五丁裏」

1 答唯二乘子願車一菩薩子。願車一也。
(一四其) 不歟 (一四不)

2 難 イヤ書歟 云唯二乘子願車一菩薩子不願車也

3 難曰唯二乘子願車_一共菩薩子不願車_二者違法花經第二

4 譬喻品言時諸子等各白父言父先所許玩好之具羊

5 車鹿車牛車願時賜与也

6
北（北7州）轅会釈①②ナシ

7 奥州北轅者通曰末学者第二問難曰唯二乘子願車一（唯）〔二六丁表〕1与2イロ

「二六丁表」

1 白父言父先所許玩好之具羊車鹿車牛車願時賜与

2 今愍教授云菩薩大子索_一与不索_一俱無有妨何者菩薩大子

3 先已乗(已・已ナシ)何ソ用索コトヲ為是名不索無妨(無妨・已玩好)亦菩薩大子索牛車

4 亦無妨之何者地前菩薩修シテ有漏三惠^一求說初地無漏二空種^(說④⑤証)無漏一空④⑤二空無漏

5 智_一是名索牛車_二地上菩薩修無漏三惠_二求証仏果種智是名

6 索牛車(牛イロナシ)故索(イロ名)不索無妨也

7
山家救難(山ノ難イロナシ)

「二六丁裏」

1 山家救云菩薩大子先已乘何用索_一為是名_卜不索無妨_一者

2 是位菩薩又其先已乘者是何車何所乘（一イ何）（又ニイ白赤）為門外牛車シテ

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

- 3 為露地牛車若二乗者多有過失北轅者偏救自妄義
- 4 会乱一乘經非法説法王説非法豈非轅者（法正經のナシ）哉汝今諦
- 5 聽善思念之今示内証仏北轅今廻心父（の由也）先所許車宅
- 6 内無所与何大子先乘明知先乘之言大妄語也
- 7 又地前所索初地二空無漏種智此義可爾地上所索仏果

〔二七丁表〕

- 1 種智有教無人亦無所証汝所索二種智者是理外依他夢
- 2 仏種智是故大子同彼羊鹿願車云羊車鹿車牛車
- 3 願時賜与其種智者宅内所許二牛車故其牛車者權
- 4 智所作唯有名字無有実義是故長者門外無与コト三種
- 5 宝車也 今釈迦尊所賜宝車者実知所示内証甚、（之由也ナシ）
- 6 深真如覺仏一切種智是故大子同彼二乗（の由也）非本所以不是
- 7 宅内所許牛車故明知大子索車深契道（の由也）大子先乘北

〔二七丁裏〕

- 1 轅妄語也是故未免其難也

2 山家問難

- 3 問以二車引諸子与牛車第三（子の由也ナシ）

- 4 問唯以羊鹿二車為引車若以牛車亦為引車耶

- 5 答正義之意以羊鹿二車為引車也（正の由也）

- 6 難曰若正義之意以羊鹿二車為引車者違法花経二譬（之由也ナシ）
（若く者之由也）

7 喻品云舍利弗如彼長者初以三車誘引諸子也

「二八丁表」

1 北轅会釈〔北〕2州〔④⑤ナシ〕

2 奥州轅者通曰末学第三問難曰若正義之意羊車〔若〕3子〔④⑤〕

3 誘引諸子今愍教授云羊鹿二車為誘引車非牛車也

4 然經云初以三車「誘引諸子」者言惣意別言惣雖言

5 三車「而意別顯以羊鹿二車誘引中小子何以故三乘

6 之中大乘即是一乘故經云初以三乘引導衆生但以大乘〔以〕④⑤〔④⑤〕

7 而度脱也〔也〕④⑤〔④⑤〕

「二八丁裏」

1 山家救難〔山〕1難〔④⑤ナシ〕

2 山家救云羊鹿二車為誘引車非牛車「也者北轅臆度

3 言不是經正義所以者何トレハ經云仏以方便力示以三乘教又論云

4 彼三乘者唯有名字章句言說非有実義〔④⑤〕「已上／論文」若北轅〔④⑤〕

5 語応云彼二乘者所釈々迦經能釈天親論俱遮三乘教

6 東隅北轅者何執牛引〔④⑤〕也況乎開元皇帝製一行

7 師碑云千門法花撥去三車〔已上〕碑文「其開元皇帝問天竺

「二九丁表」

1 三藏其一行大德稟中天三藏若不〔シ〕此說「更無可信師」

2 也北轅者習常分明難会文千番用惣言定姓二乘文万一大〔④⑤〕番引不足今復述実一実大邪〔⑤〕誤推一亦推大去

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

3 難名別実大実一同（權①④應）
（一々大々④⑤）大一大

4 権大実大義旨不同当知引一引大是権不実与一与大是

5 実不権若牛車不引大子（權①④應）無別一火宅三子聞車出宅開

6 譬合譬皆俱不成明知北轅臆度但恥避遇大愚智者（愚①④應）

7 謬（句①④勿）句許之当知未免其難一也

〔二九丁裏〕

1 山家問難

2 問門外牛車（若①用者④⑤⑥）何智所用第四

3 問門外牛車者為方便智所用一為当真实智所用耶

4 答曰門外牛車者真实知所用也（所①④斷）

5 難曰若言門外牛車者真实智所用者違法花經第二（若①用者④⑤⑥）

6 譬喻品云爾時長者即作是念此舍（已為①④⑤為已）已為大火所燒我及諸

7 子不時出必為所焚我今当設方便令諸子等得免斯害（子①④若）

〔三〇丁表〕

1 乃至云如此種々羊車鹿車牛車今在門外。以遊戲也（若①用者④⑤⑥）

2 北轅会釈（北①用者④⑤⑥）

3 輿州北轅者通曰末学者第四問難曰若言門外牛車者（若①用者④⑤⑥）

4 真实智所用者違法花譬喻品云爾時長者即作是念

5 此権已為大火所燒我及諸子若不時出為所焚我今当設（權①為大④⑤舍為已）

6 方便令諸子等得免斯害乃至如此種々羊車鹿車牛（令①用者④⑤⑥）

7 車今在門外可以遊戲

〔三〇丁裏〕

1 今愍教授云此不異前疑「故准前答可知也」

2 山家救難（山ノ難ニ救ナシ） 山家救云北轅者難会

3 難答常云准前答可知今計先答「已妄後知何実是」

4 故未免其難也

5 山家問難

6 問門外牛車与衣械机案同異第五

7 問門外牛車与衣械机案為同為異也

〔三二丁表〕

1 答曰衣械机案者二乘因乘故不同牛車「或云果化喻故与」

2 牛車同也

3 難曰若言二乘因乘故不同牛車「者違法花經第二譬喻」（二乗ニ因テ牛車ト違フ）

4 品舍利弗是長者作是思惟我身手有力当以衣械若以」（品ノ中ニ）

5 机案從舍出之若言果化喻故与牛車同者違同品」（机案ト牛車ト同ク違フ）

6 合譬文云如来亦復如是雖有力無畏而不用也」（合テ譬ノ文ニ依テ）

7 北轅会釈（北ノ轅ニ會シテ）

〔三二丁裏〕

1 奥州北轅者通曰末学者第五問難曰若二乘因乘故不」（奥州ノ北ノ轅ニ通シテ）

2 同牛者違法花譬喻品云舍利弗是長者作是思惟

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

- 3 我身手有力当以衣鉢若以机案從舍出之若言化喻
- 4 故与牛車同者違同品合譬文云如来亦復如是雖有力
- 5 無所畏而不用之

- 6 今愍教授云汝迷經法喻而張疑網「不能正解我先釈經
- 7 文後釈大意」所言「身有力」者謂仏智恵即喻机案「所言」

「三三丁表」

- 1 手有力謂仏神通即喻衣鉢仏作是思惟「我悉具足」(一〇四者)
- 2 此二勝徳二乗衆生雖無修大行求出家意当以智恵之(一〇四乗)
- 3 用机案頓授中根衆生円覚以神通云用衣鉢頓拔
- 4 下根衆生「從三界舍出耶以上根菩薩」者能行一乘因「出
- 5 於三界如彼大子能自從門出此中不説今此説不定性」二
- 6 乗「者故中根独覺不行一乘因不彼仏神力俱應藉仏智」(彼一〇四取)
- 7 恵之用如彼中子不能從門不仮人手俱授机案令其

「三三丁裏」

- 1 自昇從舍「而出即下根声聞不能行大乘之因亦不能因仏」(自一〇四四)
- 2 智恵力応与之神通如彼小子不能從門不能昇案但(小一〇四之)
- 3 以衣鉢裹之而出此言意願仏姓坐道場觀樹亦經(與一〇四乗)
- 4 行於三七日中思惟如是事為説一乗為説三乗尋念(中一〇四ナシ)
- 5 過去仏所行方便力不用仏所得智恵力及神通力即趣(惟一〇四惟)
- 6 波羅奈為五比丘只説三乗此即若説一乗為衆生損若(只一〇四ナシ)

7 說三乘為衆生益然所說三乘中大乘即是一乘汝所引

〔三三丁表〕

1 經文中不喻菩薩從門出宅故何尋同異也

2 山家救難(山ノ難ニナシ)

3 山家救云北轅者先釈經後釈意者已背自宗何況他宗(主ノ意ニ背)

4 具述有過古師義返違疏主科文意先示疏主科文意(主ノ意ニ背)

5 後顯彼主新科文初示疏主科文意者第二示大不怖喻(主ノ意ニ背)

6 有四第思大乘果化喻第二念大乘因化喻第三念隨示大(主ノ意ニ背)

7 乘行化第四無怖取之化第思大乘化(主ノ意ニ背) 經云舍利弗是

〔三三丁裏〕

1 長者作是思惟我身手有力当以衣被若以机案從舍

2 出之 第二念大乘因化 經云復更思惟是舍唯有(狭小ニ思)

3 一門而復狭小(狭小ニ思)〔已上ノ經文〕此亦有三即初念初不能依大教行也(初ノ念ニ思)

4 二念若起誹謗沈染惡道 經云諸子幻(幻ニ思)稚(稚ニ思)未有所識(未ニ思)

5 恋著戲処或当墮落為火所燒 三念示衆生密(密ニ思)

6 說大乘經云我当(我ニ思)為說怖畏之事此舍已燒宜時疾(疾ニ思)

7 出令為火之所燒害(無ニ思)

〔三四丁表〕

1 第三隨示大乘行化 經云作是念已如所思惟具告諸

2 子汝等速出

7 偏見疏以衣衾机案為二乗因果(果④⑤ナシ)後(撰④⑤接)撰(撰④⑤接)来時寺古德(撰④⑤接)

〔三五丁裏〕

1 等改先未了皆順撰(撰④⑤接)義今東土北轅未改邪師伝違(撰④⑤推)

2 背疏主意近違撰(撰④⑤推)判是以出家引動汝宗義摧壞汝(撰④⑤推)

3 執城汝迷權実義何尋異(撰④⑤推)是故未免其難也(撰④⑤推)

4 山家問難 問門外牛車為何教喻第六(撰④⑤推)

5 問曰門外牛車者為於一仏乗教喻為当分說三中大乘(撰④⑤推)

6 教喻也 答曰門外牛車以同仏乗故為出一仏乗教(撰④⑤推)

7 喻亦為分別說三中大乘教喻也

〔三六丁表〕

1 難曰若言門外牛車以同仏乗故為於一仏乗教喻亦為(撰④⑤推)

2 分別說三中大乘教喻者有二相違若言為於一仏乗教(撰④⑤推)

3 喻者於一仏乗有法花之前被演說何教法花経方便(撰④⑤推)

4 偈云所以未曾說々時未至故今正是其時決定說大乘(撰④⑤推)

5 若言為分別說三中大乘教喻者違天親菩薩法花論說(撰④⑤推)

6 法異後說法異也

7 北轅会釈(北④⑤三六丁裏一州④⑤⑥⑦)

〔三六丁裏〕

1 奥州北轅者通曰末学者第六問難曰若言門外牛車以(撰④⑤推)

2 同仏乗故為於一仏乗教喻亦為分別說三中大乘教喻者(撰④⑤推)

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

- 3 有二相違 若云為於一仏乗教喻者其於一仏乗有法花
- 4 前已被演說何故法花品偈云所以未曾說之時未至故
- 5 今正是其時決定說大乘若言為分別說三中大教喻違
- 6 天親菩薩法花論之前後前說法異後說法異
- 7 今懃授教云門外牛車為於一仏乗喻亦分別說三中大

〔三七丁表〕

- 1 乗教喻何以故不定姓二乗從四十年前一乗根機未淳熟故(教④⑤ナシ)
- 2 且於一仏乗分說三至法花会不定姓二乗根機淳熟故說(姓④⑤別)
- 3 唯一仏乗無有余乗約不定姓二乗者一乗三乗其名雖別而(姓④⑤性)
- 4 躰不別何者前未廻心名二乗者不名一乗廻心以後唯有一
- 5 乗無有二乗由此応知前說三乗後說一乗無二無別然於
- 6 一仏乗分別說三者但約不定姓二乗而說非擲頓証菩薩說(姓④⑤性)
- 7 何者四十年前以前雖為頓証說一乗教而未說会二一乗今至法花(實④⑤ナシ)

〔三七丁裏〕

- 1 会說破二一乗故云今正是其時決定說大乘也
- 2 山(山ノ難④⑤ナシ)家救難
- 3 山家救云此釈不爾二問答相違故山家不問門外羊車亦復(問④⑤門)
- 4 不問門外鹿車但問門外牛車喻一喻大得不得意今北
- 5 轅者何標句中拳而得喻釈文云說鹿人汝不会釈門(云④⑤之中)
- 6 外露地引車与車喻大喻一仮実同異因果所由但說(果④⑤)

7 不定姓（性④⑤）聞獨覺根熟不熟（不④）豈不問答小大相（是④）耶（是④）

〔三八丁表〕

1 若大乘之中不立權實者歷劫与直道何以得異（別④⑤）顯教与

2 秘教将有雜亂失故無量義經云次說方等十二部經摩訶

3 般若花嚴（嚴④⑤）海空宣說菩薩歷劫修行〔已上／經文〕当知是歷劫菩薩乘（是④⑤）

4 諸大乘教者門外之牛車所喻諸大乘也

5 又云善男子是則諸仏不可思議甚深境界非二乘所知亦非

6 十住菩薩所及唯仏与仏乃能究了又云其有衆生不得聞者

7 当知是等為失大利乃至云所以者何不知菩薩大直道（直道④⑤）〔已上／經文〕（已④⑤）

〔三八丁裏〕

1 当知大道直故者露地云牛車所喻於一仏也（一④⑤）夫勝鬘經中（夫④⑤）

2 為四乘故演說帶權破二二乘其不定姓二乘之人得成異（二④⑤）（下④⑤）

3 仏其定姓二乘入位之人未智成仏深蜜經中普為甚趣（乘④⑤）（成④⑤）（成異④⑤）（知④⑤）（成④⑤）

4 一切乘者演說帶權會二一乘其不定姓二乘之人一道出生（性④⑤）（入④⑤）（未④⑤）（性④⑤）

5 死其定性二乘人位之人未廻心向大法花經中正直捨方便（性④⑤）（入④⑤）（未④⑤）（性④⑤）

6 但說無上道爾時門外三車分段運極歷劫菩薩不知所（求④⑤）（未④⑤）

7 趣故經云不退諸菩薩其數如恒沙一心共思求亦復不能知〔已上／經文〕

〔三九丁表〕

1 当知門外牛車者為火宅故方便知所作已出火宅故運（火④⑤）（宅④⑤）（出④⑤）

2 用於此書唯有名字亦乘實義北轅者何得喻於一明知（書④⑤）（名④⑤）（字④⑤）（亦④⑤）（乘④⑤）（實④⑤）（義④⑤）（北④⑤）（轅④⑤）（者④⑤）（何④⑤）（得④⑤）（喻④⑤）（於④⑤）（一④⑤）（明④⑤）（知④⑤）

身延文庫藏『決權実論』の翻刻と対校

3 北轅所积都無道理不^(得、の邊の邊)得信也是故未免其難也^(未、のナシ)

4 山家問難

5 問門外牛車運第七

6 問門外牛車者為但運出此世間為当亦運出彼出世間耶

7 答曰門外牛車者已出二乘外故運出彼出世間也

〔三九丁裏〕

1 難曰若言門外牛車者為運出世間者違法花經第二譬^(若、問者、の、〇)

2 喩品云是以方便為說三乘令諸衆生知三界苦開示演^(以、の、の、の、)
^(令、の、今)

3 說出世間。也^道

4 北轅会积^(北、の、州、の、の、ナシ)

5 奥州北轅者通曰末學者第七問難曰若言門外牛車者^(若、の、道、の、の、〇)

6 運出彼出世間者違法花經譬喩品云是以方便為說三^(説、放、の、の、教、授)

7 乘令諸衆生知三界苦開示演說出世間道今愍授教云

〔四〇丁表〕

1 汝不知出世間出世差別迷執大乘一乘別有差別今当釈之^(力、の、出)

2 初二三地修施相同世間人故名世間四五六地作出世菩提分法^(の、の、教、施)

3 現同二乘人故名出世七地以上能作無相現超前出世故名出^々

4 世間是為一乘大乘差別說也^(説、の、の、説)

5 山家救難^(山、の、難、の、の、ナシ)

6 山家救云此积不爾草樹之位不次第故俱者所說三祇百劫^(若、の、の、舍)

7 修練菩薩是上草乘豈不羊乘行菩薩哉

〔四〇丁裏〕

1 般若所說三乘共地修無言道鉢法菩薩是小樹（菩薩是④⑤ナシ）菩薩是乘

2 豈不象無行菩薩哉璽珞所說七階次第歷劫修行獨菩薩等

3 是大樹乘豈不口日月神（日④⑤ナシ）通乘行菩薩哉

4 花嚴所說行布門中說出即行豈不（行④⑤ナシ）聲聞神通乘行菩薩

5 乎法花所說龍女獻珠即身轉男南方成仏是則円教於最

6 實。六即之位豈不如來神通乘行菩薩北轅者共行十地引

7 配三乘此不正義今汝所釈地不出世意今正義者出分段火

〔四一丁表〕

1 宅故經云開示演說出世間道露地牛車給諸子等直至道

2 場豈不出變易哉北轅所尊有為（道④⑤常）無道夢裏仏果空指門

3 外故不能遠出變易世間是故未免其難至心發願（合④⑤常）々

4 合一切有心者皆昇露地白牛車也

5 山家問難

6 問三子出宅願何車第八

7 問曰三子出宅即為願（耶④⑤也）各自乘ノ車（ム）為当同願牛車（耶④⑤也）耶

〔四一丁裏〕

1 答曰羊車鹿車者為求（云④⑤ナシ）牛車（カ）故ニ出於火宅（云④⑤ナシ）故云同願牛車也

2 難曰羊車鹿車者為求牛車（羊④⑤鹿④⑤）故ニ出於火宅故ニ同願ハ、牛車（云④⑤ナシ）

身延文庫蔵『決權実論』の翻刻と対校

3 者違法花経第二譬喻品ノ偈云如前所許諸子出来当以

4 三車随汝所欲今正是時唯垂給与也

5 北轅会釈（北ノ轅ノ会ヲナシ）

6 奥州北轅者通曰末学者第八問難曰羊車鹿車為求牛

7 車故出於火宅故同願牛車者違法花経譬喻品云如前

〔四二丁表〕

1 所許諸子出来当以三車随汝所欲今正是時唯垂給与

2 今愍教授云汝偏執迷義汝当知不定性二乘舍利弗等法

3 花会時廻心向大得变易生雖出火宅猶乘羊鹿車未乘

4 牛車經二万劫方到十信復逕一阿僧祇劫歡喜地方当乘牛

5 車雖出火宅猶名索牛車故不違經也

6 山家救難（山ノ家ノ救難ヲナシ）

7 山家救云北轅者恒執權義深迷実文耶推定不義偽会真

〔四二丁裏〕

1 了経汝今所釈相違問意所以者何山家所問諸子出宅願

2 何車耶有人抛旧賛云羊車鹿車為求牛車一故出火、

3 宅是故作難行経今北轅者無智自眼転妄謂大日転

4 汝羊鹿索牛車者文義俱偽言文偽者其法花経中都

5 無此文故言義偽者小乘二子無求牛車一各願自乘是故

6 経云爾時諸子知父安坐皆詣父所而白父言願賜我等三

7 種宝車〔已上／経文〕明知北轅者枕中不定歴劫索車是大妄語^{〔妄④⑤ナシ〕}

〔四三丁表〕

1 故相違経是故未免其難^{〔難④⑤ナシ〕}

2 山家問難

3 問三車之中牛車為方便為真実第九

4 問曰三車之中ノ牛車ハ為方便トヤ為真実ト耶^{〔耶④⑤ナシ〕答曰三車之中牛車者為真実也}

5 難曰若言三車之中牛車為真実者違法花経第二^{〔若ノ者④⑤ナシ〕}

6 譬喩品偈云即便思惟設諸方便告諸子等我有種々珍

7 玩之具妙宝好車羊車鹿車牛車大牛之車今在門^{〔牛車④⑤ナシ〕}

〔四三丁裏〕

1 外汝等出来吾為汝等造作此車随以所樂可以遊戲也^{〔以④⑤ナシ〕}

2 北轅会釈^{〔北④ナシ〕}

3 奥州北轅者通曰第九問難曰答若言三車之中牛車為^{〔曰④⑤ナシ〕}

4 真実者違法花経譬喩品云設諸方便告諸子等我有

5 種々珍玩之具妙宝好車羊車鹿車大牛之車今在

6 門外汝等出来吾為汝等造作此車随意所欲可以遊戲

7 今愍教授云此問不異前問故准前答可觀之也^{〔觀④⑤ナシ〕}

〔四四丁表〕

1 山家救難^{〔山ノ難④⑤ナシ〕}

2 山家救云北轅者見難越噴常准上答都不述同由暫^{〔不④⑤ナシ〕}

身延文庫蔵『決権実論』の翻刻と対校

3 慰弟子情今越(一〇〇示)文合中人信心山家所引文云設諸方便告(一〇〇後)

4 諸子等我有種々珍玩之具妙宝好車羊車鹿車大牛

5 之車今在門外云々(云々〇〇已上經文)

6 当知設諸方便言至極難得越羊鹿牛車今在門外

7 已不指牛色亦不云露地三車俱方便極分明莫(俱〇〇後)加二(〇〇此文)

〔四四丁裏〕

1 故三車為方便不順經文故前答已北走今准何向南也

2 是故未免其難(其難也〇〇ナシ)也

3 山家問難

4 問門外牛車喻菩薩乘故為何海第十(何〇〇河)

5 問門外牛車喻菩薩乘故為相摂何喻為相摂海喻耶(何〇〇河)

6 答曰門外牛車喻大乘其大乘即一乘故相摂海喻也

7 難曰若言門外牛車喻大乘其大乘即一乘故相摂海(若〇〇四五丁表一乗之〇〇)

〔四五丁表〕

1 喻者違大薩遮尼乾子經第二一乘品云衆依者(云々〇〇ナシ)喻声聞縁(依〇〇通)

2 覺菩薩海者喻一乘一也

3 北轅会釈(北〇〇州〇〇ナシ)

4 奥州北轅者通曰末学者第十問難曰若言門外牛車(若〇〇六乗〇〇〇)

5 喻大乘即一乘故相摂海喻者違尼乾子經第二卷一乘

6 品云衆流者菩薩声聞縁覺菩薩海喻一乘

7 今愍教授云若說四乘引其名云仏乗菩薩乗独覺乗（一〇四）此四乗此四（此四ナシ）

〔四五丁裏〕

- 1 乗中仏乗為果三乗是因尼乾子経因果相望校量勝
- 2 劣三乗喩流仏喩海若俱立三乗時即仏乗摂入菩薩乗
- 3 々々即一乗々々（一〇四）即仏乗即即大乘故撰論第八云声聞上有独覺々々乗
- 4 上有菩薩乗無有上彼雖発二十問難而不遇一執謂執（不遇）（四）通
- 5 大乘権一乗実此如中辺義鏡恵日羽足及遮異見章広
- 6 述善彼三部章当除邪執也（邪）（四）應

7 山家救難

〔四六丁表〕

- 1 山家救云北轅者会釈都不応道理権実雜乱没仏因故
- 2 夫三乗之権因為上中下根分別說三故一乗之仏因為（故）（四）ナシ
- 3 上上根故開三顯一故是故涅槃經云下智觀故得声聞菩（提）（四）應
- 4 提中智觀故得縁覺菩提上智觀故得菩薩菩提上々智觀（提）（四）應
- 5 故得仏菩提（提）（四）應（已上／経文）当知觀智之因因已四人別所得之（知觀）（四）ナシ
- 6 果何得因一但除違因権果耳若但立三因不立仏因者（因）（四）同
- 7 上々智觀於汝無分三乗淡流是北分耳（不遇）（四）應法花序分（法）（四）應

〔四六丁裏〕

- 1 無量義経時已說菩薩及池江及溪渠大海等水喩遮歴（一〇四）同
- 2 劫大乘存直道仏乗況正說之中正直捨方便但說無（法）（四）應

- 3 上道又解髻(一〇七)中明珠給四驚実衆況復滅度後募
- 4 一句聞經与授成仏記若如北轅義唯有三乘之衆流
- 5 入於權乘果仏海一乘(釋一〇七)門機具縛者都無入於一乘海若
- 6 爾者法花一仏乘衆生無入分若爾者六根清淨無配人
- 7 豈一乘大海無始入已入(一〇七)彼岸人哉明知北轅所立

〔四七丁表〕

- 1 相望因果(一〇八)權相即一大權大汝不發上々一仏乘觀智何
- 2 得真内証本來有三德汝所尊仏果許無漏有為念(德一〇八)
- 3 々生滅故權因所对故但名權仏果是故未免其難也(一〇八)
- 4 若求内証者因不応信文但除方便機今北轅者二十(因一〇八)
- 5 会釈亦不過一執謂四乘真実一乘方便此義如守護国
- 6 界章照權実鏡一乘義集等広説
- 7 夫三乘方便諸仏所説三乘唯名天親所釈貞觀以後

〔四七丁裏〕

- 1 来唐三藏究竟一乘為至実教貞觀以前三藏人
- 2 師三乘為權一乘為実今挙一説以為龜鏡有心北轅改
- 3 轍向越云爾
- 4 鴻臚少卿对希顔大乘權実对弁盤節義序品夫(品一〇八)
- 5 摩尼無色衆色而為(一〇八)真如離言仮群言以設教是(離一〇八)
- 6 以大雲遍灑則随分受其栄一音伝暢乃權実蒙其益

7 而權也者有二乘焉有菩薩焉実也者有菩薩焉有如

〔四八丁表〕

1 来焉乍若四海皆濬俱出大池（河）而十山分峰珠戒形（戒）

2 於巨海学者（字）四牛詳其至（至）願師說各住於己宗失之一（至）

3 言乖以千里即如解深蜜（密）地阿毘達磨（磨）經等瑜伽雜（密）

4 集唯識論等皆為權宗以其有為無為唯即唯別未果（有為）

5 其至極也若花嚴涅槃勝楞伽密嚴經等智度中觀宝（宝）

6 性起信論等皆為実教以其有為無為鎔融（為）即性便可示（融）

7 其究竟也語道則理教恒設因人乃奧衰（奧）有時自貞（衰）

〔四八丁裏〕

1 觀十九年權宗大振実義（符）將隱趣時（時）變者拳当代而

2 一期重習性者失正途以万計求法者（言）既北轅而適越（法）仏（亡）三法無（亡）執是者則夏虫以疑水喻乎是緣合也（亡）魔力并能遮耶因集也（亡）仏能（亡）

3 法無無由止若乃菩提果極而言生滅尚存有無之見不亡（亡）

4 則以為斷常永離於平等境執有差別謂離言性依（離）

5 主得名若藏斯之徒寔繁其類豈只違害仏之（若）

6 至教亦乃情誤無數衆生可為長歎息也北轅山家各（情誤）

7 護仏法夢裏觀如洮汰權実了因智種已有此卷（觀）

〔四九丁表〕

1 見聞信謗俱為因定見弥勒同受仏記也（聞）

2

3 決権実論（巻①②③）一卷

註

- (1) ⑤久遠寺・西教寺正教蔵（元久三写）・実蔵坊真如蔵 ⑥寛永古活字版―茶図成實、万治三版―大谷・東北大狩野・竜谷・叡山天海刊年不明―東大・東洋大哲学堂・立正（『国書総目録』三・八七頁）
- (2) 伝全二・七二二。
- (3) この脱落部分の内容については、吉田慈順（二〇二二）を参照されたい。なお、今回、身延文庫本を改めて翻刻するにあたり、いくつかの文字を吉田（二〇二二）の翻刻から修正した。特に大きな変更として、吉田（二〇二二）で「明発三蔵」としていた箇所を「明支三蔵」に改めている。吉田（二〇二二）の執筆当時は、この文字の判読が困難であったため、親円の『華嚴宗種性義抄』（一〇一九年成立）が引用する神昉『種姓差別集』の逸文に、『大莊嚴論』の訳者を「明発三蔵」（大正七二・六二上）と記していることに倣った。しかし、その後、珍海（一〇九一―一一五二）の『三論玄疏文義要』が『大莊嚴論』の訳者を「明支三蔵」（大正七〇・二九一中）と記していることを知り、字形の観点からも「支」の方が適切であると判断して、このように修正したものである。
- (4) 伝全二・六八三。

- (5) 新版日蔵七七・一三上。
- (6) 安藤・蘭田（一九七四）、三八三頁。
- (7) 安藤・蘭田（一九七四）、二五二頁。
- (8) 大竹（二〇二二）、四四頁。
- (9) 翻刻の一丁裏3―4行を参照されたい。

参考文献

- 安藤俊雄・蘭田香融校注『最澄／日本思想大系四』（岩波書店、一九七四年）
- 大竹晋訳『現代語訳最澄全集第四巻権実諍論篇三』（国書刊行会、二〇二一年）
- 吉田慈順「最澄撰『決権実論』脱落箇所の発見——身延文庫所蔵写本の分析を通して——」（『印度学仏教学研究』第七〇巻第二号、二〇二二年）
- 本研究は、一般財団法人仏教学術振興会の令和四年度研究助成による成果の一部である。